

令和6年度 もみじの森小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：24519

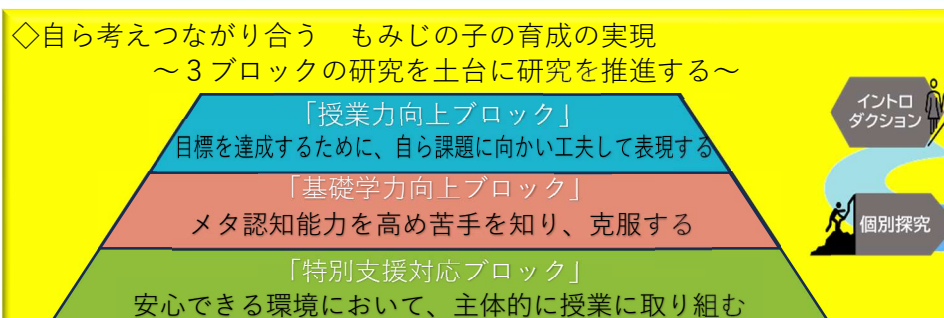
実 態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇札幌市の共通指標アンケートから、「振り返ったことを次に生かそうとしている」と感じている児童が多いことから、既習を次の学びへ繋げていこうという意識が高い傾向が見られる。 ◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と感じている児童が多い。 ◇児童の実態交流会から、前向きに学習に取り組む素直さが育まれている児童が多い傾向が見られる。	◇札幌市の共通指標アンケートから、「自分の意見（考え）を進んで発表しようとしている」児童の割合が少ないという実態がある。 ◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から、自分の考えを発表する場面では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫することに課題があることが明らかとなった。 ◇児童の実態交流会から、基礎的な学力と自分の考えを表現する力が課題であることがわかった。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の態度〉の現状と課題

◇札幌市の共通指標アンケートの相互承認に関する項目「人の役に立てて嬉しいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたい」では、全校の90%以上の児童が肯定的な回答をしている。年度を通して縦割り活動による異学年交流を実施していることや、運動会や学習発表会等の行事の際に互いを認め合い、相互評価をする場があることが、自己肯定感の高まりに繋がっていると考えられる。一方で、他者に自分の意見や考えを伝えたり、表現したりする力が課題となっていることから、今後も自分に自信をもつことができるような場の設定や価値付けをしていくことが重要である。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自ら考えつながり合い、表現する力

取 組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇自ら考えつながり合う もみじの子の育成の実現 ～3ブロックの研究を土台に研究を推進する～  「授業力向上ブロック」 目標を達成するために、自ら課題に向かい工夫して表現する 「基礎学力向上ブロック」 メタ認知能力を高め苦手を知り、克服する 「特別支援対応ブロック」 安心できる環境において、主体的に授業に取り組む イントロダクション → 個別探究 → 協働探究 → リフレクション	◇よりよい学校にするための委員会活動の充実 →学校の様々な課題を議題にした話し合い →クラスルームを活用した振り返りと相互参照による高め合い ◇たてわりでの交流活動の充実 →大人数と少人数（グループごと）での活動内容の決定 →高学年を中心とした子ども主体の企画・運営

〈本プログラムの実行に向けて〉

